

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス未来創造塾 ウエスト街区学生寮計画(仮称) 東棟	階数	地上5階、地下1階
建設地	神奈川県藤沢市遠藤字西ノ谷 5232-1、他	構造	RC造
用途地域	防火地域・準防火地域の指定なし ただし法第22条区域	平均居住人員	150 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年6月20日
敷地面積	4,189 m ²	作成者	株式会社横総合計画事務所
建築面積	1,290 m ²	確認日	2022年6月20日
延床面積	4,956 m ²	確認者	株式会社横総合計画事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 97%
- ③上記+②以外の: 97%
- ④上記+: 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに隣接する計画地に、共用棟、宿泊棟(西棟、東棟)からなる学生寮を計画する。宿泊棟には、寮室(合計80室、300人入居)を配置する。5人ユニットを中心とし各フロアにラウンジやコミュニケーションスペースを設け寮生同士の交流を促す。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温熱環境: 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当の外皮性能。 ・ 光環境: 共用部は昼光率を2.5%以上確保し、積極的に自然光を取り入れる計画。宿泊室には、ブラインド及びバルコニー壁、又は庇を計画し glare を抑制。 ・ 空気質環境: F☆☆☆☆以上の建材を採用。天井裏については、第3種ホルムアルデヒド発散建築材料を使用。30CMH/人を確保する換気量にて設計。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心理性・快適性: 交流を促す共用部と居住空間を演出する内装。維持管理に配慮し、共用トイレの床・壁面にタイルを採用。水切を設置。外壁撥水塗装を採用。掃除用工具を計画する等、清掃や点検のしやすさに配慮した設計。 ・ 耐用性・信頼性: ビニル床シート等、耐用年数20年~30年の建材を使用。 ・ 対応性・更新性: 3.4m以上の階高を確保。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物環境の保全と創出: 既存樹木を積極的に保存。外構緑化率94%。外来種、自生種、維持管理に配慮した計画。 ・ まちなみ・景観への配慮: 隣接する既存キャンパスと調和する形態・配置・外装材を採用し良好な街並みを形成。 ・ 地域制・アメニティへの配慮: 中央広場、緑道など憩いの場を提供。ラウンジコモンズや光庭により内外環境の連続性を演出。バルコニー前の植栽や壁によりプライバシーに配慮。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物外皮の熱負荷抑制: 日本住宅性能表示基準「3-1断熱等性能等級」における等級4相当の外皮性能。 ・ 設備システムの高効率化: 建築物全体BEI=0.93。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非再生性資源の使用量削減: 特定調達品目・エコマーク商品に指定されたビニル床シートや打込断熱材を採用(3品目以上)。躯体と仕上げが容易に分別可能な、躯体・軽鉄+仕上げ材の構成を採用。再利用できるユニットとしてOAフロアを採用。 ・ 汚染物質含有材料の使用回避: ODP=0かつGWP=1の吹付断熱材を使用。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライフサイクルCO₂排出率97%。 ・ 地域環境への配慮: 指導された規模の雨水流出抑制対策を実施したうえで、浸透性舗装の採用、調整池にて基準以上の雨水貯留量を確保。 ・ 周辺環境への配慮: 「光害対策ガイドライン」の一部を満足、屋外広告物照明を行わない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される